

令和4年度「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートの結果概要について

「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケート

- (1) 目的
 - ・ 学校教育に関わる意見や意識を数値化し、学校評価へ反映することにより、学校評価の客観性や信頼性を高める。
 - ・ 全校共通質問の市平均等との比較により自校の強みや弱みを確認し、学校評価に反映する。
- (2) 対象者
①教職員 ②児童生徒 ③保護者 ④地域住民（R4回答者数 61,341人）
- (3) アンケート項目
【A質問】
 - ・ 市が設定した全校共通のアンケート質問。25の評価項目に関連したアンケート質問が設定されており、各対象は、関連した質問項目に回答する。
 - ・ 教職員20問、児童生徒15問、保護者9問、地域住民16問 計60項目【B質問】

学校が独自に、最大5問までアンケート項目を設定することができる。
- (4) 実施方法
原則Webで回答することとしたが、地域住民には紙媒体も併用して実施した。
(紙での回答者数：地域住民465人 保護者3人)
- (5) 実施時期
令和4年10月から12月まで

1 全体アンケートの概要（資料1～3参照）

- ・ No.1「学習に取り組む態度」については、質問対象となっている教職員、保護者、児童生徒のすべての対象において、肯定的回答割合が90%を超える数値となっている。また、No.15「分かる授業」においても、教職員、児童生徒ともに95%を上回る数値となっている。
- ・ No.2～No.4の豊かな心を育む教育に関する項目については、年々、肯定的回答割合の上昇が見られており、本年度においては、特に保護者での上昇が見られた。また、No.4「あいさつ」に関わる質問では、肯定的回答割合が全対象で上昇している。児童生徒一人一人を認め励まし、規範意識を高めたり、たくましさの涵養を図ったりするなど、豊かな心を育む教育を実践してきたことにより、着実に成果として表れている。
- ・ No.12～No.13のいじめ・不登校対策については、教職員・児童生徒の肯定的回答割合が90%を上回っており、教職員による毅然とした指導や一人一人を大切にした学級経営、各学校での対策の充実が成果として表れている。
- ・ No.17「学校の業務の効率化」については、肯定的回答割合が2年連続で80%を下回っており、引き続き教職員の業務の負担軽減を図る必要がある。

- No.18「小中一貫・地域学校園」の取組についてはコロナ禍による減少から回復が見られたが、市の目標値を大きく下回るため、小中一貫教育・地域学校園の取組の充実を図る必要がある。
- 保護者の回答率については、Web回答の導入を開始した令和3年度に減少し、令和4年度も令和3年度と同程度の回答率であった。様々な保護者の声を学校経営の充実・改善に生かせるよう、引き続き、保護者のアンケート協力や回収に努めていく。
- 地域住民の肯定的回答割合は、すべてのアンケートにおいて95%を上回っており、各学校での教育活動が、地域住民から理解を得られている。
- 地域住民の回答者数の減少が見られた。様々な地域からの声を学校経営に生かすために、地域住民の回答者を広げていく必要がある。

2 全体アンケート集計結果の概要のポイント

※表中の「増減」は、令和3年度との比較

(1) 確かな学力を育む指導の充実

評価項目		教職員	保護者	地域住民	児童生徒
No.1 児童生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。	R4 (%)	97.0	91.3	/	93.1
	増減	-0.7	-1.2	/	-0.2
No.15 教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。	R4 (%)	99.0	84.0	/	95.6
	増減	0.2	0.6	/	-0.2

No.1「学習に取り組む態度」については、質問対象となっている教職員、保護者、児童生徒のすべての対象において、肯定的回答割合が90%を上回り、児童生徒が学習に対して主体的に取り組んでいる成果が表れている。No.15「分かる授業」についても教職員、児童生徒の肯定的割合が95%を上回っており、教材研究やきめ細かな指導の成果となっているが、保護者の肯定的回答割合は、教職員に比べて低い結果となっている。学習への理解が十分でないと感じている保護者もいることから、児童生徒一人一人の課題に対するフィードバックときめ細かな指導の充実が求められる。今後も、学習への興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、学業指導の充実を図り、学力向上につなげていくことが必要である。

(2) 豊かな心を育む教育の推進

評価項目		教職員	保護者	地域住民	児童生徒
No.2 児童生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。	R4 (%)	96.1	94.0	98.0	92.5
	増減	-0.5	1.9	0.8	0.0
No.3 児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。	R4 (%)	92.9	93.7	98.0	89.5
	増減	-0.2	0.7	0.1	0.1
No.4 児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。	R4 (%)	88.3	86.9	95.4	94.9
	増減	0.4	2.3	1.4	0.3

No. 2 「思いやりの心」については、すべての対象の肯定的回答割合は90%を上回っている。No. 3 「きまりやマナー」についても、児童生徒以外は90%を上回っており、児童生徒の数値も年々上昇している（令和元年度比+3.4ポイント）。また、No.4 「あいさつ」に関わる質問では、肯定的回答割合が全対象で上昇しており、特に、保護者においては、2.3ポイントの上昇が見られた。これらは、各学校が、児童生徒一人一人を認め励ます教育や道徳科の充実等、心の教育の充実を図ってきたことが、児童生徒の姿として表れ、高く評価されたものと考えられる。

(3) いじめ・不登校対策の充実

評価項目		教職員	保護者	地域住民	児童生徒
No.12 学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。	R4 (%)	98.9	81.8	96.6	96.8
	増減	-0.2	1.5	-0.1	-0.1
No.13 教職員は、不登校を生まないように、一人一人の児童生徒を大切に、児童生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。	R4 (%)	98.3	89.6	/	95.8
	増減	0.1	1.0	/	-0.2

No.12 「いじめ対策」については、教職員、児童生徒、地域住民の肯定的回答割合が95%を上回っている。また、No.13 「不登校対策」においても、児童生徒の肯定的回答割合が95%を上回っており、いじめ・不登校の対する取組や教職員の高い意識が、一人一人の児童生徒を大切にした学級経営につながっていると考えられる。一方で、保護者と教職員の肯定的回答割合を比較すると、保護者の肯定的回答割合は、「いじめ対策」において17.1ポイント、「不登校対策」においては8.7ポイント低い結果となっている。今後とも、いじめへの未然防止に努めるとともに、保護者と緊密に連携しながら、児童生徒への丁寧な指導を行うことで、児童生徒にとって楽しく学ぶことができ、保護者にとっても安心して通わせることができる学校づくりに努めていく必要がある。

(4) 教職員の業務の効率化

評価項目		教職員	保護者	地域住民	児童生徒
No.17 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。	R4 (%)	76.8	/	/	/
	増減	0.6	/	/	/

No.17 「学校の業務の効率化」については、肯定的回答割合が2年連続で80%を下回った。全体としての肯定的回答割合は上昇しており、小学校では肯定的回答割合が昨年度比1.1ポイント上昇し、82.4%となったが、中学校においては、肯定的回答割合が65.6%となり、0.3ポイント減少する結果となった。中学校では、部活動指導における業務負担が考えられることから、外部指導員の活用により教職員の業務の負担軽減につなげたい。また、デジタルツールの活用による校務の効率化を図るなどし、教職員の働き方改革を推進する。

(5) 小中一貫教育・地域学校園の活動

評価項目		教職員	保護者	地域住民	児童生徒
No.18 学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。	R 4 (%)	92.4	80.2	95.0	77.5
	増減	1.9	0.4	0.9	4.3

No.18「小中一貫・地域学校園の取組」については、全対象において肯定的回答割合が増加し、コロナ禍による減少から回復傾向が見られた。児童生徒においては、令和2年度の調査から10ポイント上昇している。一方で、本市では、保護者、地域住民の肯定的回答割合の目標値を95%としているが、保護者においては、約15ポイント下回っている。コロナ禍の状況により、小・中学校や地域と連携した取組が十分に回復するには至っていないことから、今後は、小中一貫・地域学校園の取組を回復・充実させ、児童生徒への教育効果を高めるとともに、保護者への情報発信を推進していく。

(6) 保護者の回答率

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
対象者数	約40,000人	33,262人	32,291人
回答数	34,514人	22,426人	22,151人
回答率	—	67%	67%
回答方式	児童生徒数回答	1家庭1回答	1家庭1回答
	紙	Web	Web

保護者の回答率については、昨年度と同程度の数値となった。令和3年度からWebでの回答を導入したが、回答率は、紙でのアンケートを行っていた令和2年度以前と比較して減少している。学校経営の充実・改善に生かせるよう、引き続き、保護者に対してアンケートの協力を依頼していく。

(7) 地域住民の回答

【地域住民の肯定的割合】

	評価項目	(%)
No.2	児童生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。	98.0
No.3	児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。	98.0
No.4	児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。	95.4
No.6	児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。	96.1
No.12	学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。	96.6
No.14	学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。	98.2
No.18	学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。	95.0
No.19	学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	96.4
No.20	学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。	98.8

地域住民の質問数は9問となっており、すべての質問において95%を上回る結果となった。各学校での教育活動や児童生徒の成長の姿を通して、地域住民から学校教育への理解が得られている。なお、本年度の地域住民の回答数は、1,302人となり、前年度から184人(12.4%)減少したことから、今後は、地域住民の回答数を増やして、地域からの意見を学校経営の充実に活かしながら、地域とともにある学校づくりの推進を図っていく。